

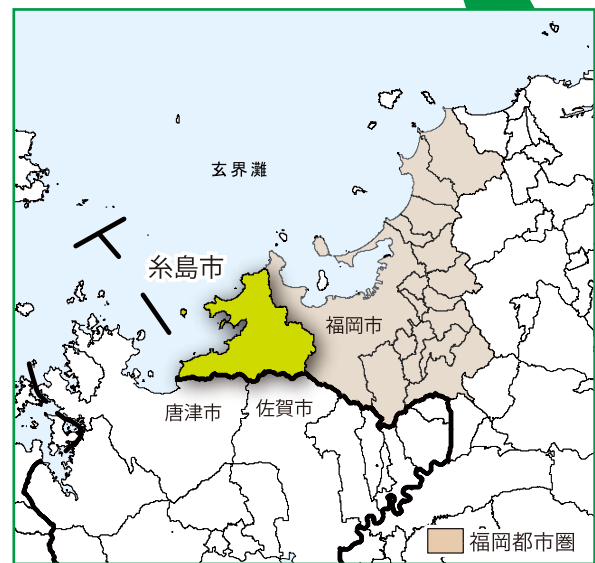
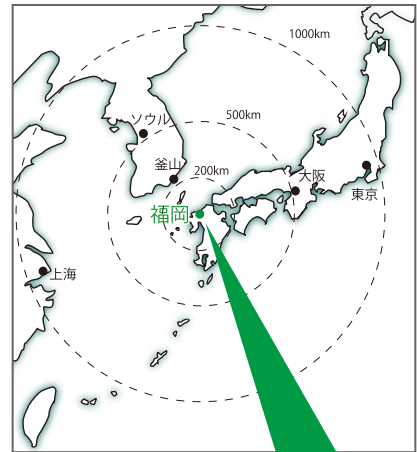
## 2 糸島市の現状

### (1) 位置・地勢

本市は、福岡県西部の糸島半島に位置し、東は福岡市、南は佐賀県唐津市、佐賀市に接しています。

また、政令市である福岡市とその周辺の16市町で構成され、約240万人の人口規模を誇る福岡都市圏に属しています。この福岡都市圏は、福岡空港を介して国内各地はもとより、アジア各国と直結しており、中でも中国上海と約1.5時間、韓国ソウルと約1時間という距離で、ビジネスや観光の面で大変有利な位置にあります。

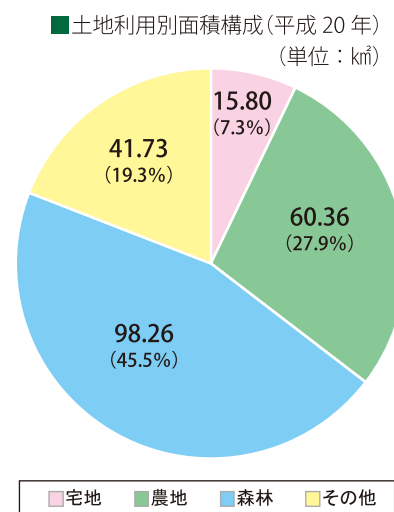
本市北側には玄界灘に面した美しく変化に富んだ海岸線が続き、南側には脊振山系の山々が連なっています。中央部のなだらかな糸島平野には、広大な田園地帯が広がり、東西に走るJR筑肥線、国道202号沿線を中心に市街地が形成されています。



### (2) 面積・土地利用

本市の面積は216.15km<sup>2</sup>で、東西約24km、南北約19kmにわたり、福岡県下の自治体では第6位の広い面積を有しています。

土地の利用状況を見ると、宅地が7.3%、農地が27.9%、森林が45.5%であり、農地・森林の面積が7割強を占める自然豊かな地域となっています。



資料：福岡県農林水産統計年報・福岡県林業統計要覧

### (3) 歴史

糸島半島は、弥生時代より大陸からの新文化の玄関口として知られていました。魏志倭人伝では、この地に「伊都国」があり、古くから農耕が営まれ、文明が栄えたとされ、国指定史跡の平原遺跡(曾根遺跡群)、新町支石墓群、一貴山銚子塚古墳など、現在も当時をしのばせる遺跡や出土品が豊富に残されています。

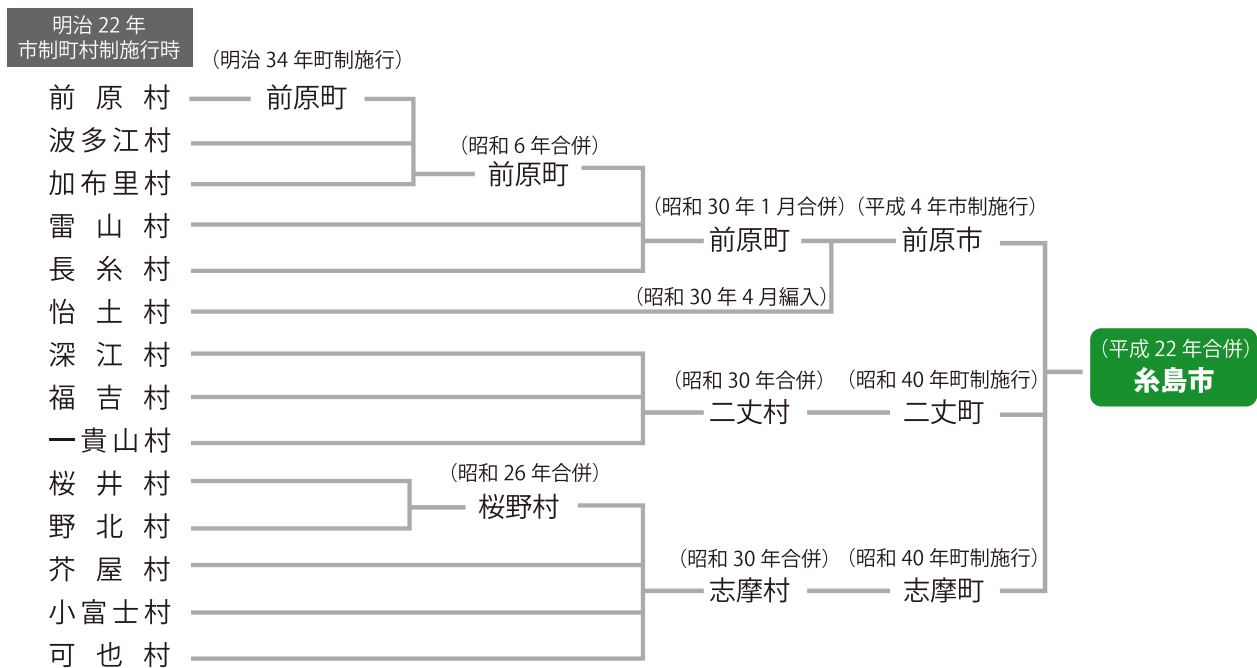
また、この地は、大宰府政庁が設けられた時代に、防衛のために「怡土城」が築かれるなど、外交・国防上の要地として人々の往来が多かったものと推察されます。

江戸時代には、現在の前原名店街を中心とした市街地が唐津街道の宿場町として賑わい、以後、糸島の政治、経済、文化、交通の中心地として発展してきました。

明治22年4月には市制町村制が施行され、全国一律に行われた町村合併により、現在の糸島市域において、それまで80を超えていた村が14村となりました。その後の明治29年には、律令制導入以来続いてきた「怡土」「志摩」の両郡が合併して、「糸島郡」が誕生しました。

戦後、昭和28年の町村合併促進法の施行により、市町村合併が各地で進められ(昭和の大合併)、昭和30年には前原町、二丈村、志摩村の3つの自治体となりました。

昭和40年に二丈村と志摩村が町制を施行し、二丈町、志摩町となり、平成4年には前原町が市制を施行し、前原市となりました。さらに、平成22年1月に「平成の大合併」により糸島市が誕生し、現在に至っています。



## (4)人口と世帯

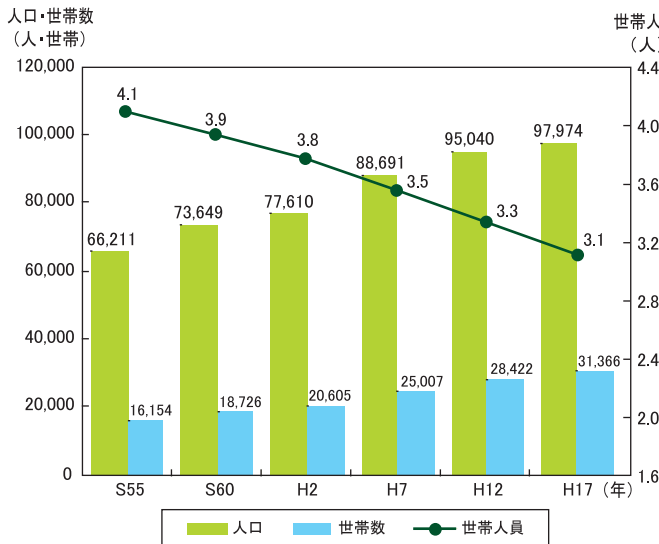
### ● 総人口と世帯数

国勢調査によると、平成17年の本市の人口は97,974人で、増加傾向にあり、過去10年間では約10.5%増加しています。

同じく平成17年の本市の世帯数は31,366世帯で、転入世帯の増加や核家族化の進行に伴い増加していますが、一方、1世帯当たりの人員は年々減少しています。

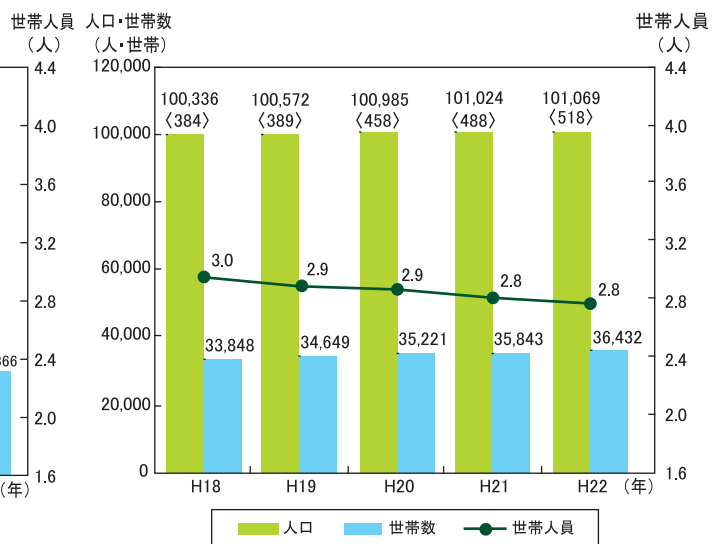
住民基本台帳によると、近年の人口はほぼ横ばいで、世帯数は若干増加傾向にあります。

■人口・世帯数の推移(昭和55年～平成17年)



※10月1日時点で市内に住む人(外国人を含む) 資料：国勢調査

■住民基本台帳人口・外国人登録者数・世帯数の推移(平成18～22年)

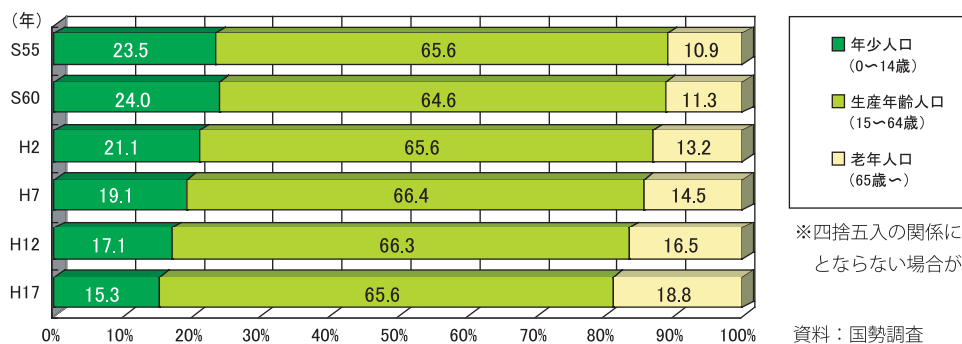


資料：住民基本台帳、外国人登録  
※人口の上段は住民基本台帳人口に外国人登録者を加えたもの。  
下段の( )書きは外国人登録者数。

### ● 年齢区分別人口

平成17年の年齢区分別人口の構成比は、年少人口(0～14歳)が15.3%、生産年齢人口(15～64歳)が65.6%、老年人口(65歳～)が18.8%となっており、昭和55年からの推移を見ると、少子高齢化により人口構造が大きく変化していることがわかります。

■年齢区分別人口割合の推移(昭和55年～平成17年)



※四捨五入の関係により、合計値が100%とならない場合がある。

資料：国勢調査

【参考】

平成22年3月末  
住民基本台帳人口

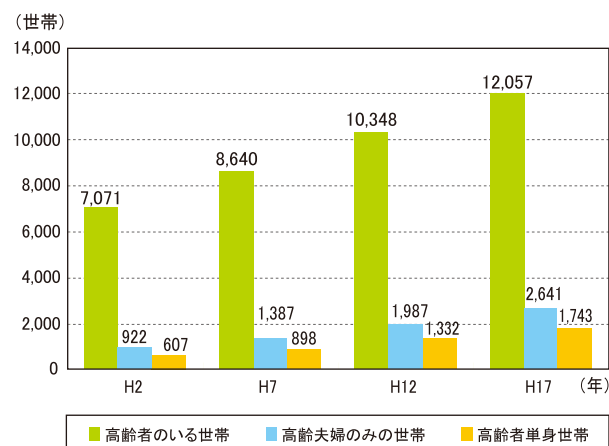
年齢区分	人口(人)	割合(%)
年少人口(0～14歳)	14,498	14.4
生産年齢人口(15～64歳)	64,729	64.4
老年人口(65歳～)	21,324	21.2
合計	100,551	100.0

### ● 高齢者世帯の状況

高齢者\*世帯数は、年々増加傾向にあり、平成7年からの10年間で、高齢者のいる世帯数は39.5%増、高齢夫婦(夫65歳以上、妻60歳以上)のみの世帯数は90.8%増、高齢者単身世帯数は94.1%増となっています。

特に、高齢者単身世帯や高齢夫婦のみの世帯が大幅に増加していることから、地域の中で高齢者がいきいきと安心して暮らせる環境づくりが求められています。

■ 高齢者世帯数の推移(平成2年～17年)



資料：国勢調査

### ● 校区別の人口・世帯数と高齢化率

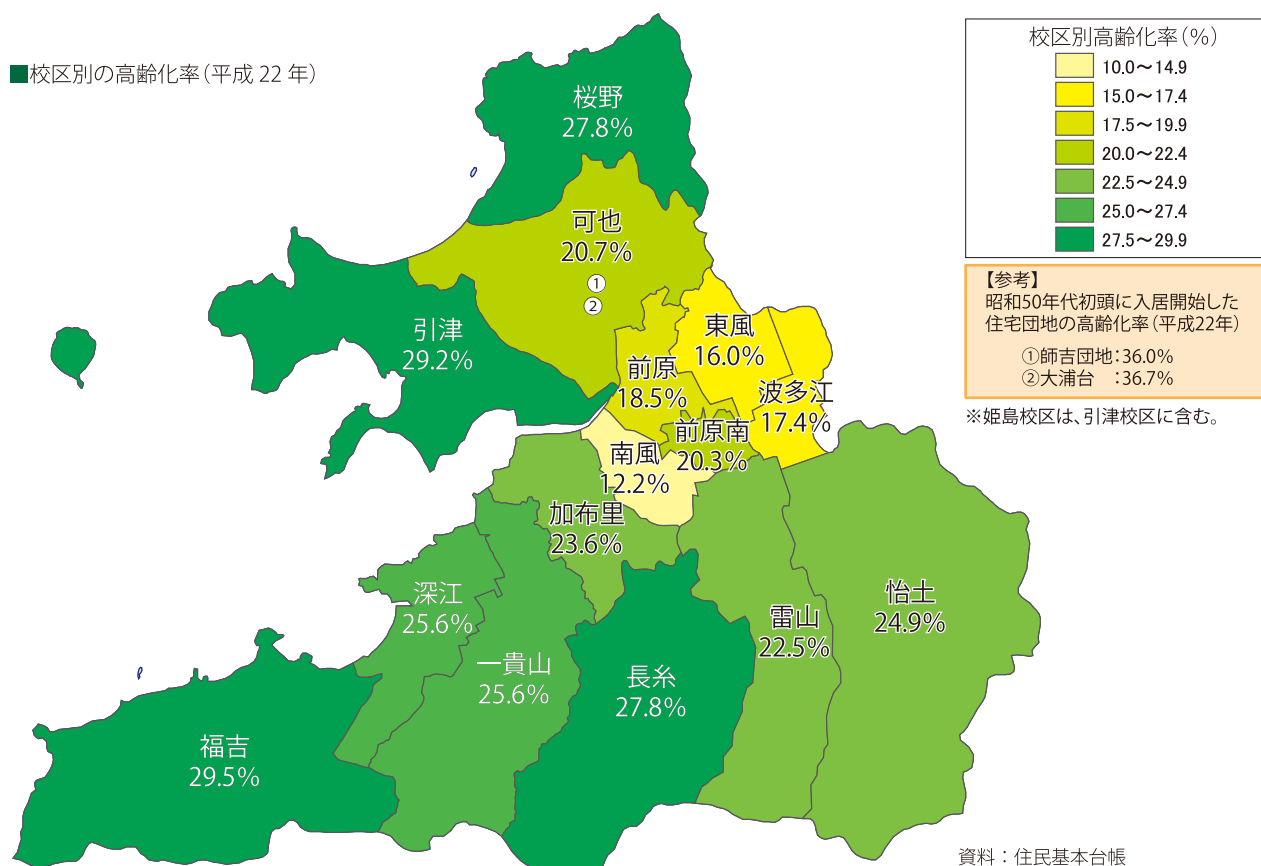
本市の校区別の人口と高齢化率\*は、校区ごとに大きな差が生じています。

波多江、東風、前原、前原南、南風、可也の各校区では、高齢化率が市平均(21.2%)よりも低くなっています。

一方、中山間地域がある長糸、雷山、怡土、一貴山、福吉の各校区と、加布里、深江、桜野、引津の各校区では、高齢化率が市平均より高く、高齢化が進行していることがうかがえます。

また、住宅地であっても、20～35年前に開発された住宅団地などでは、比較的同年代の人たちが同時期に入居し、世代のバランスが取れていないこともあり、高齢化率が高くなっています。

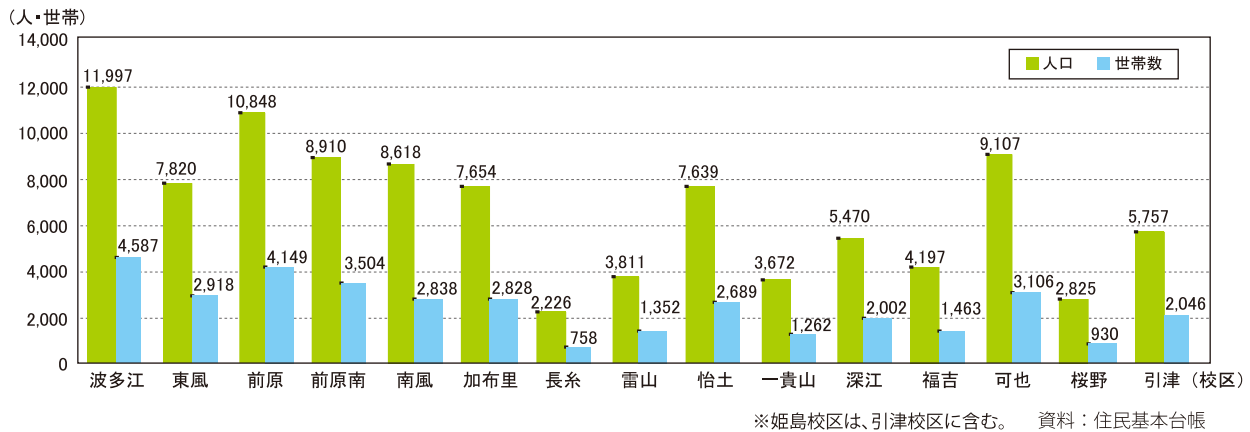
■ 校区別の高齢化率(平成22年)



用語解説

- 高齢者..... 65歳以上の人。
- 高齢化率..... 65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合。

■校区別の人口・世帯数(平成22年)

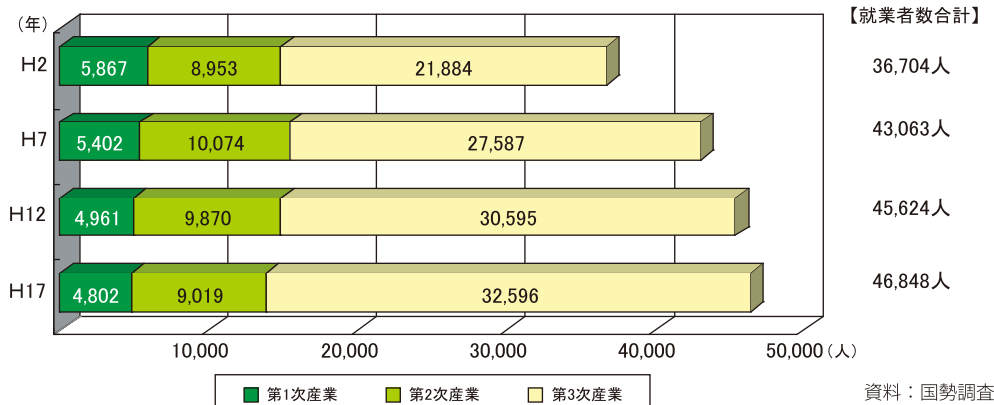


●産業別就業人口

平成17年の就業人口は46,848人で、そのうち第1次産業が10.3%、第2次産業が19.3%、第3次産業が69.6%を占めています。第1次・第2次産業の割合は、減少傾向にある一方、通勤圏の拡大などにより、第3次産業の割合は年々増加しています。ただし、福岡都市圏で比較すると、第1次産業の割合は依然として高く、本市の産業構造の大きな特徴となっています。

また、夜間人口(常住人口)に対する昼間人口の割合(昼夜間人口比率)を見ると、本市は78.9%と福岡都市圏の他市と比べて低く、昼間の人口が夜間の人口よりも少ないことから、ベッドタウン化が進んでいることがわかります。

■産業別就業人口の推移(平成2年～17年)



※分類不能があるため、就業者数合計が産業別就業人口の合計と一致しない。

■平成17年の産業別就業人口(他市との比較)

自治体名	人口 (H17国勢調査)	就業者数	第1次産業就業者		第2次産業就業者		第3次産業就業者		昼夜間 人口比率 (%)
			人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	
糸島市	97,974	46,848	4,802	10.3	9,019	19.3	32,596	69.6	78.9
筑紫野市	97,571	44,276	714	1.6	8,013	18.1	34,449	77.8	84.2
大野城市	92,748	42,994	189	0.4	7,644	17.8	34,160	79.5	85.4
宗像市	94,148	41,611	1,983	4.8	8,074	19.4	30,821	74.1	81.6
古賀市	55,943	26,552	727	2.7	7,025	26.5	18,429	69.4	93.0
福津市	55,677	25,003	1,212	4.8	5,187	20.7	18,406	73.6	78.2

資料：国勢調査

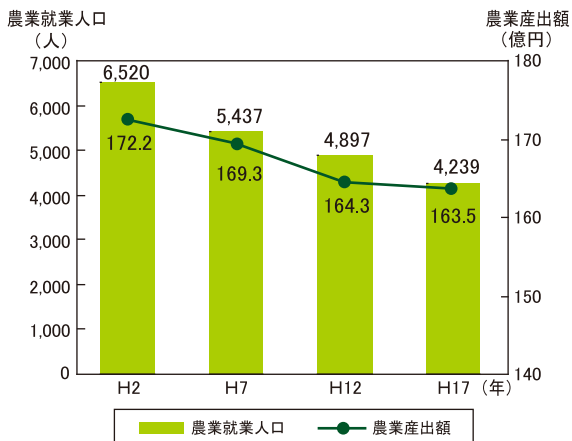
## (5) 産業構造

### ● 農業

本市の農業就業人口は、平成17年で4,239人と、平成7年と比べて22.0%減少しています。福岡県全体では28.1%の減少であることから、本市の減少率は県平均よりも低い状況です。

平成17年における農業産出額は、約163億5,000万円で県第4位となっており、福岡県全体では過去10年間で16.8%減少したのに対し、本市では3.4%減にとどまっています。

■ 農業就業人口と農業産出額の推移(平成2年～17年)



■ 農業の状況(平成17年)

県内順位	自治体名	農業産出額 (億円)	H7-H17 増減率 (%)	農業従事者数 (人)	H7-H17 増減率 (%)
1	久留米市	339.4	▲ 2.6	11,444	▲ 22.5
2	八女市	260.4	▲ 10.7	9,043	▲ 29.2
3	朝倉市	166.2	▲ 21.4	6,165	▲ 21.2
4	糸島市	163.5	▲ 3.4	4,239	▲ 22.0
4	柳川市	163.5	▲ 25.1	6,235	▲ 34.6
	福岡県	2,236.0	▲ 16.8	95,023	▲ 28.1

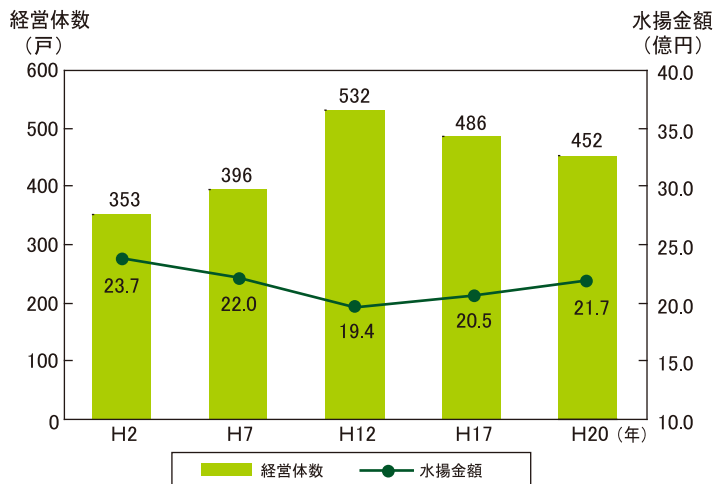
資料：農林業センサス

### ● 漁業

本市の漁業経営体数は、平成20年で452戸と、平成12年の532戸をピークに減少傾向が続いています。

一方で、水揚金額は、平成12年まで減少していたものの、近年は増加傾向にあります。

■ 漁業経営体数と水揚金額の推移(平成2年～20年)



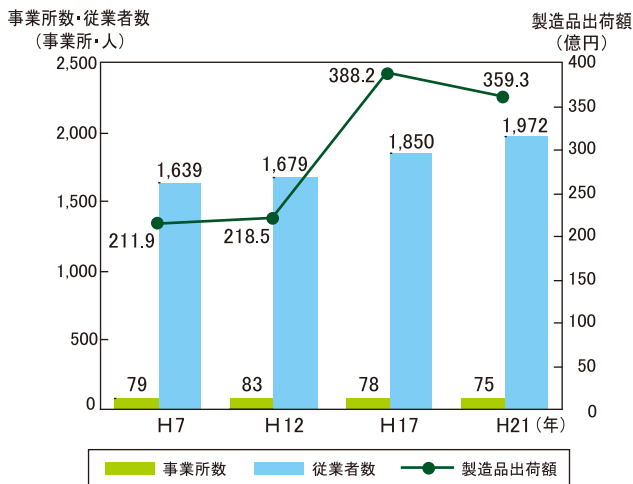
資料：港勢調査

## ● 工業

工業の事業所数は、ほぼ横ばいで推移しています。平成21年の就業人口は、1,972人と年々着実に増加しています。また、製造品出荷額は、平成17年までは増加傾向にありましたが、近年は減少に転じています。

平成21年の状況を福岡都市圏の他市と比較すると、製造品出荷額が低くなっています。

■事業所数・従業者数と製造品出荷額の推移(平成7年～21年)



■他市町との比較(平成21年)

自治体名	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	製造品出荷額 (億円)
糸島市	75	1,972	359.3
筑紫野市	75	2,061	4,050.0
大野城市	146	3,005	411.6
宗像市	51	1,449	326.5
古賀市	108	8,440	1,988.1
福津市	38	1,692	244.6

資料：工業統計調査

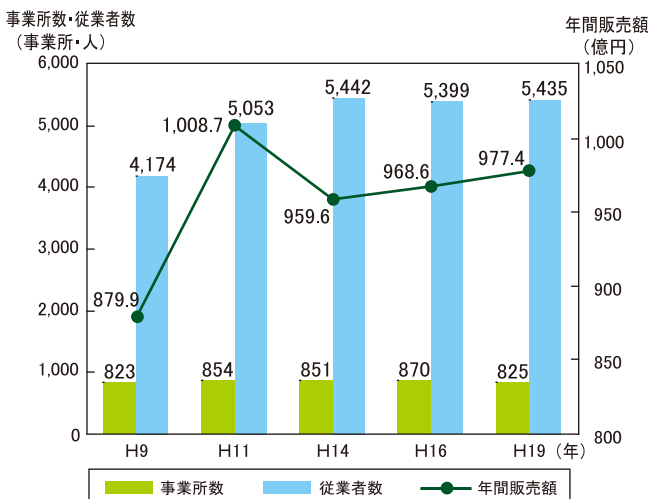
※事業所数は、従業者4人以上のものである。

## ● 商業

商業の事業所数は、増減を繰り返しながらもほぼ横ばいの傾向となっています。従業者数は、平成19年で5,435人と、平成9年と比較して30.2%増加しており、また、年間販売額は同期間で11.1%増加しています。

平成19年の状況を福岡都市圏の他市と比較すると、事業所数は多いものの、1事業所当たりの年間販売額は低くなっています。

■事業所数・従業者数と年間販売額の推移(平成9年～19年)



■他市町との比較(平成19年)

自治体名	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	年間販売額 (億円)	1事業所当たり年間販売額 (億円)
糸島市	825	5,435	977.4	1.18
筑紫野市	804	6,587	3,495.6	4.35
大野城市	1007	8,959	3,451.7	3.43
宗像市	804	5,624	1,181.7	1.47
古賀市	512	3,918	898.2	1.75
福津市	490	3,039	573.9	1.17

資料：商業統計調査

## (6) 交通体系

本市の中央部を東西方向に J R 筑肥線、国道 202 号、国道 202 号バイパス、西九州自動車道がほぼ平行して走り、南部の山麓には主要地方道大野城二丈線が東西に走っています。

西九州自動車道の開通や、J R 筑肥線の電化、複線化、福岡市営地下鉄との相互乗り入れなどに伴い、九州一の繁華街である福岡市天神、九州の鉄道の玄関口である J R 博多駅、空の玄関口である福岡空港へも短時間での移動が可能となり、通勤・通学時間も大幅に短縮されています。

市内 J R 各駅における平成 21 年度の乗降客数は、筑前前原駅が最も多く、次いで波多江駅、筑前深江駅の順になっています。筑前前原駅と波多江駅は 1 日の乗降客数が 5,000 人以上の特定旅客施設であり、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー新法)」において重点的にバリアフリー化を進める施設となっています。

その他の公共交通機関として、コミュニティバス※などのバス路線があります。前原地域の 7 路線(11 系統)のコミュニティバス、志摩地域の 3 路線(4 系統)の路線バスに加え、各庁舎間を結ぶ 1 路線(2 系統)を運行しており、地域によって運行状況に差があるものの、市民生活に密着した移動手段として活用されています。また、岐志一姫島間の離島航路では、市営渡船を 1 日 4 往復運航しています。

なお、平成 22 年度末の福岡都市高速道路 5 号線の全線開通や西九州自動車道との接続により、自動車交通の利便性が一層向上することが期待されますが、本市では西九州自動車道のさらなる整備促進についての要望活動を行っています。

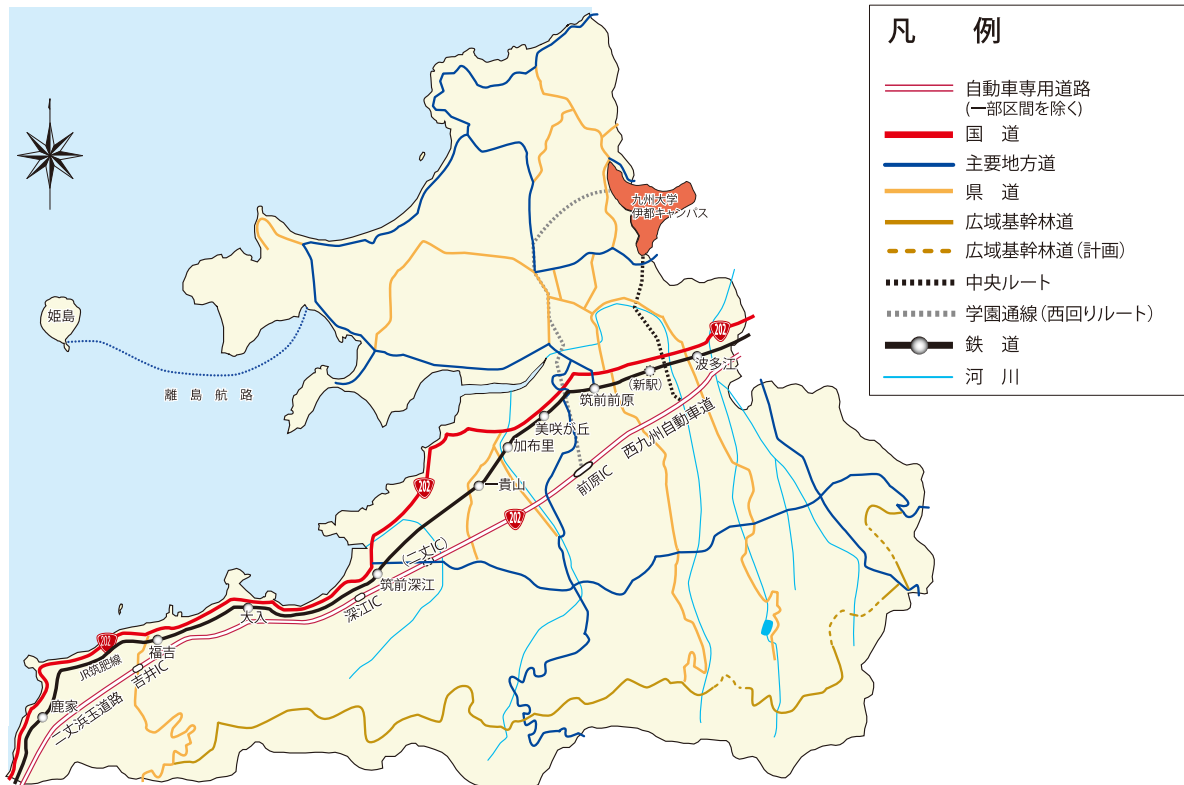
■ J R 筑肥線各駅における 1 日平均乗降客数(平成 21 年度)

(単位:人/日)

波多江	筑前前原	美咲が丘	加布里	一貴山	筑前深江	大入	福吉	鹿家
5,078	14,288	1,947	1,523	1,065	2,088	283	944	188

資料: J R 九州

■ 交通体系図



### 用語解説

- コミュニティバス……………一定の地域において、地域住民の生活や福祉の向上のために市町村が主体的に運行する乗り合いバス。一般路線バスと比べてよりきめ細かい需要に対応する。